

未来 ひだか

みらくる

日高農業改良普及センター



輝け！馬女たち ～日高女性軽種馬ネットワーク10周年記念事業～

平成30年11月13日、馬女ネットは設立10周年を記念して、JRA女性新人騎手の藤田菜七子氏と調教師の根本康広氏をお迎えし、新冠町レ・コード館を会場にトークショーを開催しました。

平成20年当時、軽種馬産業の低迷、担い手の不足、軽種馬生産に関して女性が技術を習得する場が非常に少ないことが背景にありました。女性自らが学習活動を通して経営参画に取り組み、馬産地日高を盛り上げていくこと、女性の役割発揮、活躍の場面づくりを築くこととして活動がスタートし、現在に至っています。

10周年を迎え、生産地と調教師・騎手の絆をつくり、今後更に軽種馬産業を盛り上げていくこと、活動の歩みを更に深めることとして、今回の企画となりました。

司会は小木曾なつ美氏、参集者も女性限定、管内から集まった馬女達は60名ほど。豊かな視点での馬女トークは、女性達の気持ちに“気づき”が生まれ、魔法がかかったようなひとときとなりました。

これからも貴女達の活動が、軽種馬産地を牽引することでしょう。輝け！馬女たち！



小木曾さん 藤田騎手 根本調教師

参考にしよう！ 地域の活動事例

ミニトマトのマンガン過剰症と思われる症状の解決に向けて 【本所 地域第一係】

新ひだか町静内では新規参入者の新しいほ場を中心に、ミニトマトのマンガン過剰症と思われる症状が発生しています。マンガン過剰症は、土壌中のマンガンの過剰な吸収により葉脈に褐変が生じます。症状が進行すると生育が抑制され、収量の低下が起こる場合があります。静内では牧草跡地に施設ハウスが建設されることが多く、土壌中に混和された未分解の牧草などが影響していると考えられていましたが、はっきりした原因は未解明です。

地域第一係では(地独)北海道立総合研究機構中央農業試験場と北海道農政部技術普及室に支援を要請し、協力体制の下、要因の解析に取り組んでいます。

症状の発生しているほ場の植物検体を解析したところ、症状はマンガン過剰症であることが認められました。マンガン過剰症は土壌pHを高めることにより、発生を抑制できることが分かっており、検討のためpHの改良を行った試験ほ場を設置しました。今年の結果ではマンガン過剰症の発生は抑えられており、良好な生育が保たれました。現在はマンガン過剰症の発生要因の特定と、より具体的な対策方法について検討中です。



写真1 マンガン過剰症による葉脈褐変

写真2 試験ほ場の生育状況確認

写真3 土壌サンプルの採取

いちごの秋季増収を目指した現地研修会の開催

【本所 地域第二係】

様似町野菜振興会と浦河町いちご生産振興会は、夏秋どりのいちごの生産量日本一の産地ですが、全国的にも減収する秋季（9～11月）の収量確保が課題でした。それを解決すべく普及センターは、平成28年から秋季増収技術を開発・実証・普及しています。

平成30年は振興会、JA、町の協力により秋季増収を目指した現地研修会が6回、12ほ場で行われ延べ145名が参集しました。その技術は多くの農業者に実践され、その結果、高単価な秋季収量が増え、所得向上につながっています。



写真1 現地研修会の様子(浦河町)

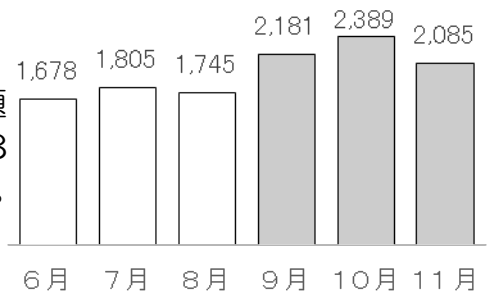


図1 月別単価 (平成26～29年平均値)

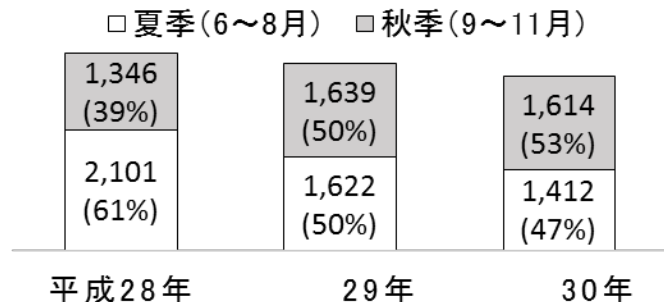


図2 夏季・秋季の反収 (kg/10a)

参考にしよう！ 地域の活動事例

平取町4Hクラブ イナキビプロジェクト3年目！

【西部支所】

平取町4Hクラブは平成28年度からイナキビ栽培プロジェクトに取り組み、今年で3年目になりました。「イナキビを町内に広め、自分たちで商品開発をしてみたい！」という思いで、パッケージをデザインし(写真1)、SNSを通じて販売したところ、町内外からの反響が大きく、前年産のイナキビは無事完売しました。

8月には町主催の食育イベントに参加し、小学生と一緒にイナキビを使った料理を作りました。また、会長から平取町でイナキビが栽培されていた歴史などを話したことで、地元の子供たちにイナキビが身近な作物であることを知ってもらいました(写真2)。

今年の収穫作業では一部のほ場で、昔ながらの収穫方法「穂ちぎり(写真3)」を実践しました。「穂ちぎり」とは、貝殻を使いテコの原理で穂の先端だけを摘む収穫方法で、クラブ員から「鎌で刈るより早い！」「その後の作業もしやすいのでは？」との意見がありました。試行錯誤の連続ですが、クラブ員一丸となって取り組んでいます！



写真1 パッケージ



写真2 小学生の前で発表する
会長



写真3 「穂ちぎり」での収穫

次代を担う青年農業者ゼミナール 視察研修会を開催しました！

【広域班】

日高農業のリーダー育成を目的とした次代を担う青年農業者ゼミナール2期生も2年目を迎えました。2年目は、研修会だけではなく、「日高の農業やゼミナールを知ってもらおう！」と、日高農業&ゼミナールPR版のカレンダー作りにも励んでいます！作成したカレンダーは、関係機関や管内の小中学校などに配布を計画しています。

昨秋には、2度の視察研修を行いました。1回目は「ゼミ生に学べ！」とゼミ生宅を訪問しました。2期生だけでなく、1期生の農場も視察。普段は見られないゼミ生の素顔も見られました。沢山の質問が飛び交い、お互いに刺激を受け合ったようです。

2回目は、北海道で数少ない短角牛を飼育しているえりも町たかはし牧場を視察。ファームインや6次産業化による多角経営など、普段は聞けない貴重なお話を伺えました。

閉講までのラストスパート、まだまだ活動と交流を重ね、地域を越えた絆が深まりそうです！



2期生の平取町 糸屋農場。冬期間の労働や収入対策として寒締めほうれんそうを栽培。トマトとは違った面白さがある！



2期生の平取町 長谷川牧場。近隣の離農により規模拡大するも、地域では「酪農家の新規就農者の参入」を、望む声が…



たかはし牧場の放牧地内にて。100haを越える庄巻の景色に、ゼミ生は「これぞ、北海道！」と脱帽の様子でした。

日高町フルーツほおずき×札幌シメパフェ

【西部支所】

「沙流太ほおずき絆の会」では、平成24年から「日高町フルーツほおずき」を栽培し、町内の温泉施設、道の駅で販売しています。

平成30年は、新たに「札幌シメパフェ」加盟店のハロウィン限定「南瓜パフェ」のシロップと飾りに使われ好評を得ました。今後の「日高町フルーツほおずき」の展開に期待が持てます。



ほおずきの
管理作業を
手伝う高校生



ほおずきを
使った
ハロウィン
限定南瓜パ
フェ

札幌シメパフェとは？

札幌発祥の飲み会文化の一つ。飲み会の最後で食べるラーメンをパフェに置き換えたもの。「締めラーメン」に対して「締めのパフェ」を総称しています。

イネ科牧草新品種の現地実証展示ほ設置！

【本所 地域第二係】

日高管内での牧草新品種の普及拡大を目指すため（独法）家畜改良センター新冠牧場の事業により東部地区の協力農場の草地において、現地実証展示ほが設置されました。

浦河町杵臼の採草地ではチモシー中生種「なつぴりか」、様似町岡田の酪農家の放牧地にはメドウフェスク「まきばさかえ」＋オーチャードグラス「ハルジマン」がは種され、発芽後の調査では草丈、密度ともに十分に確保されたことを確認しました。

本格利用は来年以降となりますが、今後は3年間、越冬性や生育状況を踏まえ普及を図る予定です。



展示ほ（浦河町）での密度調査の様子

日高管内指導農業士・農業士会現地研修会を開催！

【広域班】

平成30年10月25日、様似町のJAひだか東いちご共同選果場と駒谷牧場、浦河町の吉田農場を視察しました。

平成29年10月に竣工されたJAひだか東いちご共同選果場は、画像処理を利用し、重量や等級を自動で選果。自動選果のスピードに参加者も驚きの様子でした。

様似町の駒谷牧場は、平成29年に有機畜産JAS認証を取得、翌年牛肉を初出荷。経営主の西川奈緒子農業士は「日本一牛にとって幸せな農場」とお話ししながらも、飼育管理の大変さをおもしろおかしく語って頂きました。

浦河町の吉田隆農業士は平成24年の新規就農時から、毎年町平均の1.5倍収量をあげており、その極意について参加者は熱心に質問攻めでした。「新規就農時の研修でお世話になり、地域に恩返ししたい」とお話しされました。



牧場で飼養管理を話す西川農業士(中央)



いちごの栽培を説明する吉田農業士(左)

日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521
〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918
〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/>